人とともに 地域とともに 島根大学

*shimadai

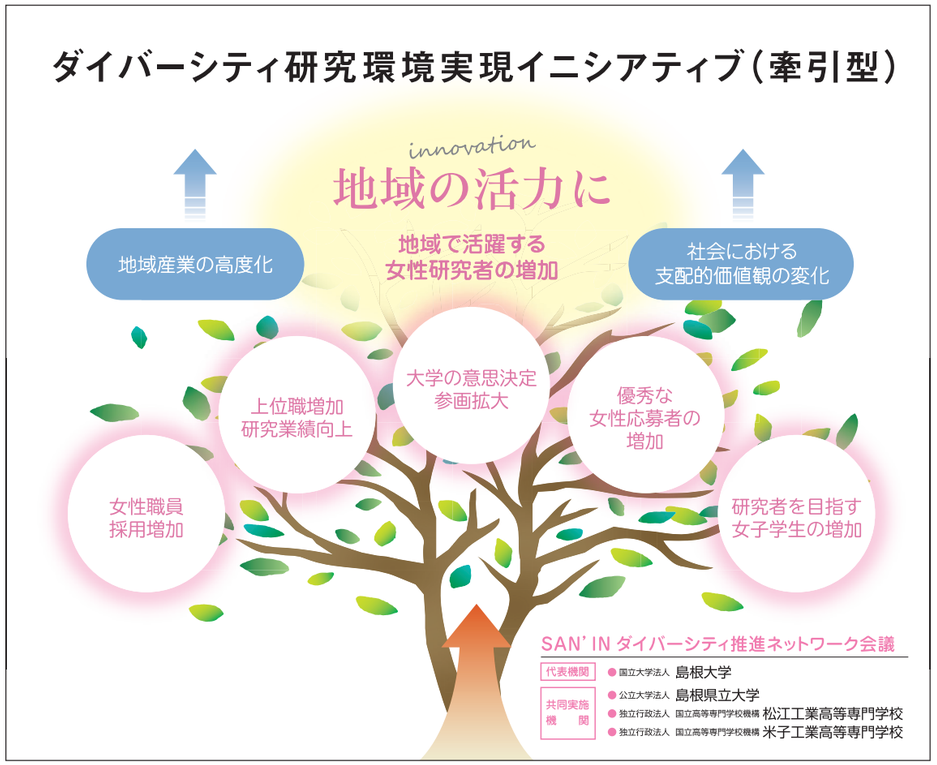
広報しまだい
Shimane University

［特集1］ダイバーシティへの取り組み

多様な人材が活躍できる環境の実現へ

vol. 47
shimadai
2021.1

［特集2］共同研究講座の今



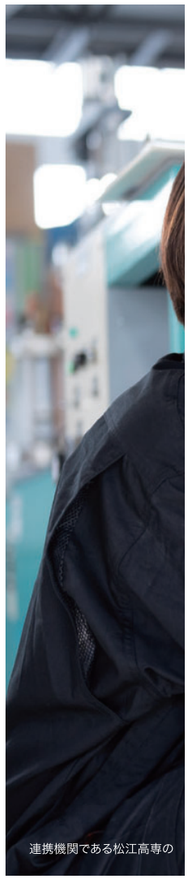
女性研究者比率と男女別研究者数

		16年度	27年度	28年度	29年度	30年度	R1年度	R2年度
女性研究者比率(%)		11.5	18.2	18.7	20.5	21.7	21.9	21.9
研究者数(人)	男性	618	637	644	645	636	616	569
	女性	80	142	148	166	176	173	160

(各年度5月1日現在の数値。原則、特任（フルタイム）を含む)
平成16年度数値は「平成22年度地方から開く女性研究者の未来in島根」より
それ以外は、「国立大学における男女共同参画の推進状況に関する調査（国立大学協会）」より

として、教職員から学生までが力を存分に発揮できる環境づくりを進めています。その中心的な役割を担うのがダイバーシティ推進室（旧：男女共同参画推進室）です。

島根大学では、平成20年に文科省の科学技術振興調整費「女性研究者支援モデル育成」プログラムに採択されたのを機に、男女共同参画推進室を設置。「平成16年度、島根大学における女性研究者の比率は11．5％でした。全国的な平均から


連携機関である松江高専の

芹川助教。

特集1

ダイバーシティの取り組み

多様な人材が活躍できる環境の実現へ

「誰もが働きやすく学びやすい大学」を目指し、令和元年6月に「ダイバーシティ推進宣言」を行った島根大学。ダイバーシティの機運が高まる昨今、島根大学における取り組みについて、学長特別補佐（男女共同参画担当）の河野美江教授にお話をうかがいました。

男女共同参画に係るこれまでの様々な活動

近年、国内でもよく耳にするようになった「ダイバーシティ（多様性）」。性別だけでなく、国籍や年齢、身体の障がい、文化や宗教、価値観などの違いを背景とした差別をなくし、社会の全構成員の個性が尊重され、活躍できる環境づくりが求められています。そのような状況下において、島根大学では次世代に活躍する人材育成の場

人とともに 地域とともに 島根大学
*shimadai
広報しまだい Shimane University
2021.1 vol.47

[特集1]
ダイバーシティへの取り組み …… 01
[特集2]
共同研究講座の今 …… 05
[特集3]
しまね大交流会2020 …… 07

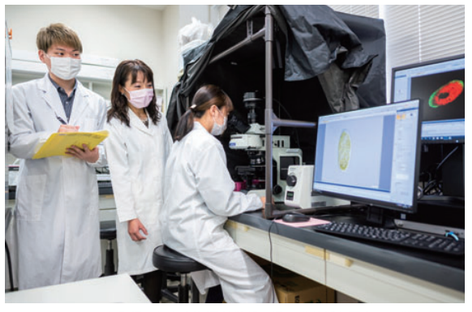
vol.47 CONTENTS

■留学生・留学体験紹介 …… 09
■島根大学の研究・地域貢献事業紹介
①人間科学部 高橋 哲也 教授…… 11
②総合理工学部 酒井 達弘 助教…… 13
③生物資源科学部 高原 輝彦 准教授…… 15
■社会で活躍する卒業生 …… 17
■地域と交流する学生 …… 19
■しまだい便り …… 21
■しまだい's サークル …… 24
■島根大学支援基金より …… 25
■読者プレゼント …… 25

企画・制作
株式会社メリット
デザイン
有限会社node
タイトルロゴデザイン
松陽印刷所デザイン室 森脇 祥吾

表紙／生物資源科学部の児玉有紀准教授

見れば高い数値ですが、男性に比べれば圧倒的に少ない状況でした」と河野教授が説明します。育児と研究の両立を支援するため、出雲キャンパスにおける学童保育施設の設置などハード面の整備に加えて、出産や育児、介護などで研究時間の確保が困難な教員のための研究サポーターを配置するなどの各種取り組みを講じてきました。また、女性研究者の積極的採用を行い、令和2年度には女性研究者の比率は21．9％にまで上昇しました。


ロールモデル集にも登場した生物資源科学部の児玉准教授と研究室の学生たち。

女性研究者の活躍促進 事業採択で取り組みが加速

一連の女性研究者支援の動きを加速させるきっかけになったのが、令和元年9月に採択された「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」です。この事業は女性研究者のライフイベントに配慮した研究環境の整備や女性研究者の研究力向上のための取り組み、女性研究者の積極採用や上位職への積極登用など、女性研究者の活躍促進に向けた取り組みを支援するものです。令和元年10月には、男女共同参画推進室を「ダイバーシティ推進室」に改称。島根県立大学、松江工業高等専門学校、米子工業高等専門学校と連携し、「イノベーションを促進し山陰の地に活力を取り戻す」ことを共通の目標に、ダイバーシティ研究環境の実現に取り組んでいます。

「女性が活躍するためには、まず、研究職に進む女性を増やすことが必要です。理系の進路に進む、大学院に進学する、研究者になる…、その過程で女性の割合はどんどん減っているのが現状です」。理系進路に進む女子学生を増やすため、山陰等で理系進路を選択し、社会で活躍されている方を紹介したロールモデル集を作成しました。また、理系進路選択を促す活動には、学生も参加しており、理系の女子大学生・大学院生からなる「SUN´INGirls」を結成し、小・中・高校生向けの理系クイズ企画や、小学校で理系分野に楽しく触れてもらえるようなワークショップを行うなど、学生の目線に立った活動も積極的に行っています。

その他にも、女性研究者とのネットワークも強化する目的で「SAN´IN ご縁ネット（研究者ネットワーク）」を設立し、様々な分野の研究者が参加し、定期的に情報交換を行っています。

VOICE 連携機関の声

松江工業高等専門学校
環境・建設工学科
芹川 由布子助教

異分野研究から見出せた解決策 得られた様々な【ご縁】を大切に

私はこれまでに「ご縁ネットミーティング」「研究マッチングイベント2020」に参加させていただきました。島根に来て間もなく、研究者との繋がりがほとんどなかった私にとって、このような機会は大変貴重なものとなりました。一見関連性のないように思える研究の中にも、自身の研究と共通した課題が多くあることに気づき、異分野連携の重要さを感じることできました。現在行っている防災に関する研究は、土木の知識はもちろんのこと、心理学や医学・居住学といった人に関わる部分が多くあるため、このようなご縁を大切にし、研究者や地域のみなさんとの繋がりを絶やすことなく活動をしていきたいと考えています。

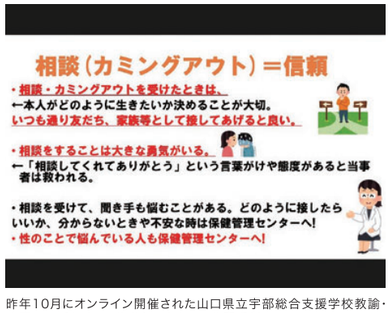
ロールモデル集
全ページはこちらからご覧いただけます。

誰もが活躍できる大学に 取り組みを地域にも波及

女性研究者育成に注力する」方で、「ダイバーシティ」とは女性だけを指す言葉ではありません。女性に限らず幅広い層にも目を向けることが大切だと河野教授は言います。「LGBTや障がいのある方など、マイノリティが抱える問題というのは非常に複雑です。普段は保健管理センターに在籍していますが、そういった相談を受けることもあります。誰もが快適に過ごせる環境づくりに取り組むことが大学の重要な役割なのです」。ダイバーシティ推進室では、年に1回LGBTに関する講演会を実施して意識啓発を行っているほか、「多目的トイレ」について、LGBTや障がいのある方、小さいお子さん連れの方など誰もが使えることを分かりやすく表示するため、「誰でもトイレ」のサインを学生と一緒に相談しながら進めているところです。また、学内でのヒアリングで英語の必要性を実感している教員が多かったことから、教員向け「オンライン英語カフェ」や「英語論文の書き方セミナー」なども開催しています。

島根大学や連携機関を中心に広がりをみせるダイバーシティの取り組みですが、その枠内で終わるのではなく、地域に広げていくのも大学の果たすべき役割だと河野教授は話します。「潜在しているけれど大きな力を持っている人はたくさんいます。みんながそれぞれの個性や力を発揮できるような土壌を作っていかなければいけません。それと同時に、大学の一番の使命は人材育成ですから、ダイバーシティの意識を持った人材を育て、社会に輩出していきたいと考えています」。多様性を認める社会の実現に向けて、本学と連携機関、企業、行政が連携しながら、引き続き取り組みを進めていきます。

昨年11月に持田小学校で行われたSUN'INGirlsプロジェクト。牛乳パックで家を作るワークショップの様子。



昨年10月にオンライン開催された山口県立宇部総合支援学校教諭・今田真樹氏による「多様な性と生」の公開授業。

学長特別補佐（男女共同参画担当）・河野美江教授

VOICE 理系学生の声

総合理工学部
建築デザイン学科 4年
小嶋 優実さん

興味のきっかけは 意外と身近なところにある！

所属する研究室に持田小学校でのワークショップの話があり、その時に「SUN'INGirls」の存在を知りました。私はもともと理系科目が苦手だったのですが、レゴブロックが好きで空間に興味を持ってから、建築デザイン学科を目指してあきらめずに勉強をしてきました。そういった経緯もあり、チームに参加することにしました。卒業論文の執筆が落ち着いたら、SUN'INGirlsが定期的に行っている小中高校生向けの理系クイズ企画などにも参加したいです。私がそうだったように、理系分野に興味を持つきっかけは大小問わずいろんなところにあると思います。そのきっかけを少しでも提供できたらと思っています。